頭部のけが

【観察・確認】チェック項目

- ☐ 後頭部への強打あり
- ☐ 側頭部、こめかみへの強打あり
- ☐ 意識がない・意識障害
  健忘・何かおかしい
  - ・眼を開いていない　・話せない
  - ・時/場所/人が正確にわからない
  - ・受傷前後の事を覚えていない
- ☐ 呼吸なし
- ☐ 四肢しびれ・マヒ　筋力低下あり　← 頸椎損傷の疑い
- ☐ 感覚の異常あり
- ☐ めまい・耳鳴り・ふらつきあり　← 脳しんとうの症状疑い
- ☐ 頭痛・頭重感・頸部痛あり
- ☐ 嘔気・嘔吐あり
- ☐ けいれんや普段と違う行動パターンあり
- ☐ バランステストの異常あり

脳しんとうバランステスト

利き足を前におき、そのかかとに反対の足のつま先を付けて立つ。

体重は両方の足に均等にかける。

両手は腰において目を閉じ、20秒間その姿勢を保つ。

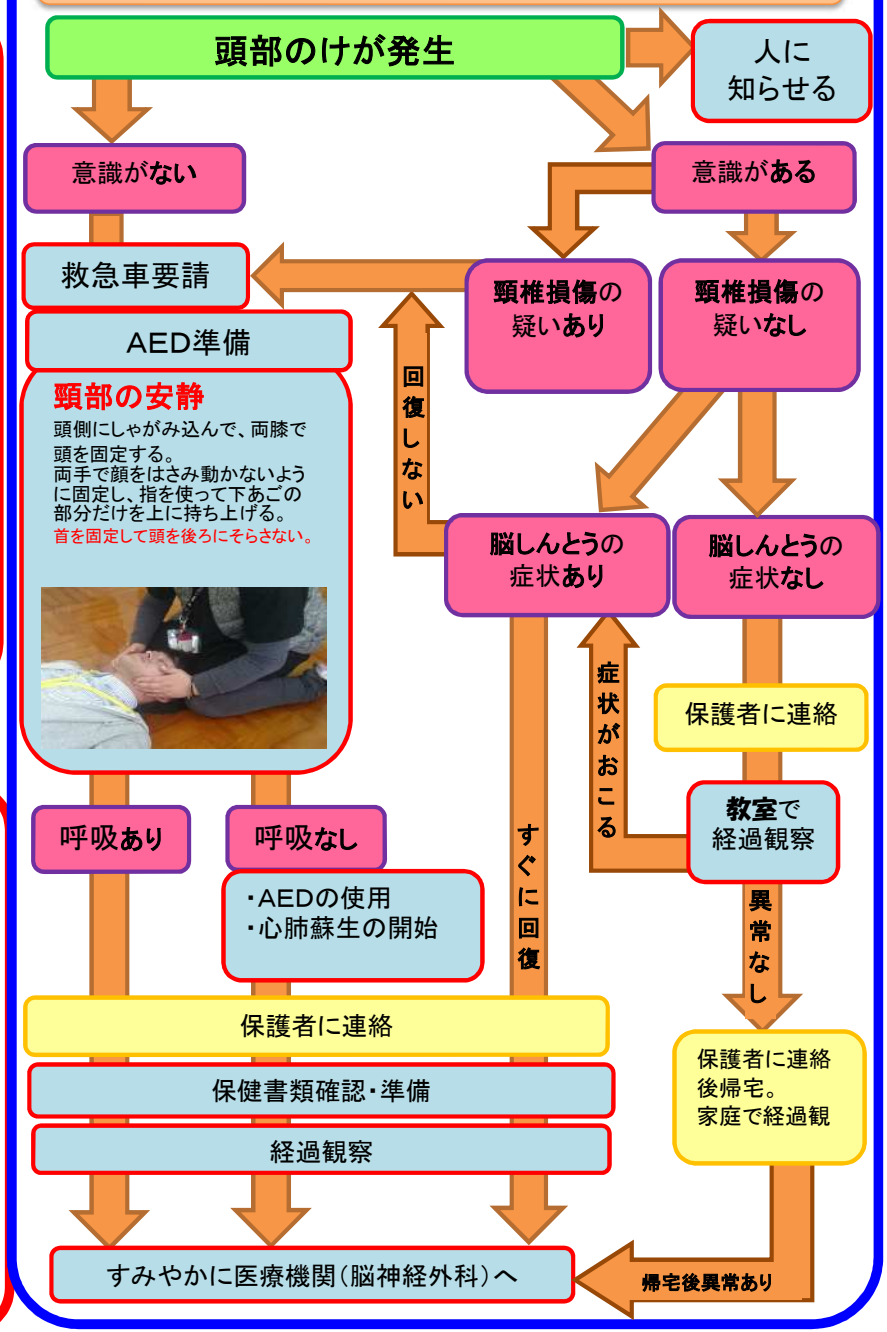
よろけて姿勢が乱れたら、目を開いて、最初の姿勢に戻り、テストを続ける。

●目が開く
●手が腰から離れる
●よろける、倒れる
などのエラーが、20秒間に6回以上または開始の姿勢を5秒以上保持できない場合には、脳しんとうを疑う。

【対応・処置】チェック項目

- ☐ 意識がなければすぐ119番に連絡し救急車を要請する。その後AEDの準備をする。
- ☐ **頸部の損傷の可能性がある場合は動かさない。**119番に連絡し救急車を要請する。その後AEDの準備をする。
- ☐ 脳しんとうの可能性があり回復が見られない場合は119番に連絡し救急車を要請。
- ☐ **嘔吐がある場合、回復体位をとらせ気道確保をする。**
  ・傷病者の下になった上肢に頭を乗せ下あごを前に出すようにし、手の上にあごをのせ支える
  ・安定のため下肢は曲げ、後ろに倒れないようにする。
- ☐ 衣類はしめつけを取りゆるめる。
- ☐ 脳しんとうを起こした当日は安静に過ごす。運動・体育などをさせない。
- ☐ **「セカンドインパクト症候群」を予防する。**
  1回目の脳しんとうからある一定の期間内に、2回目の衝撃を受けて急性硬膜下血腫などの重い頭部外傷を起こす可能性がある事を、保護者に伝える。運動再開の時期については医師に相談することを勧める。また帰宅後も受傷から24時間は一人にはせず経過観察を行ってもらうよう依頼する。

頭部のけが対応フローチャート



京都市立　小学校

参考資料：　「頭部外傷10か条の提言第2版」　日本臨床スポーツ医学会 学術委員会 脳神経外科部会「スポーツ事故防止ハンドブック」　日本スポーツ振興センター

令和　　年　　月　　日